

基地の幹部 空自の「餅つき」に参加 *Yokota leaders showcase partnership with Japanese tradition*

December 20, 2022

By Tech Sgt. Taylor Workman
374th Airlift Wing Public Affairs

航空自衛隊作戦システム運用隊主催による恒例の「餅つき」がこのほど行われ、横田基地の幹部や航空自衛隊のカウンターパートが集った会場は和やかな雰囲気にも包まれた。

餅は、餅米で作られる正月に作る日本の伝統的な食品で、健康と繁栄の象徴として広く知られている。また、餅つきは共同作業で時間と労力を要することから、チームワークやパートナーシップの象徴としての社会的意義もある。

参加者は4人1組になり、大きな石臼で、重さのある蒸した餅米を杵で搗いた。日米の幹部が交代で餅を搗くと、餅を搗く大きな音と歓声が会場に響き渡った。

餅米を弾力のある滑らかな状態になるまで搗いた後、それを手でひと口大ほどにちぎって成形した。

航空自衛隊伊豆原隆志1等空佐は、「餅つきは、いわば神聖な儀式」と述べ、「餅つきは相互の協力が必要であり、新年を迎えるにあたり、皆で協力し、喜びを分かち合う大切な機会を持つことができ非常にうれしく感じている」と語った。

